

大谷翔平選手からのプレゼント

2024(令和6)年1月23日に大谷翔平選手からのプレゼントグローブ、右利き用2個、左利き用1個が安浦小学校と安登小学校に届きました。
大谷選手からのメッセージを子どもたちに伝えると、歓声があがりました。



ようこそ先輩

～ 宮森智志(みやもりさとし)選手から学ぶ ～

3学期が始まって間もない、1月12日(金)、安浦小に内海小時代の卒業生で、プロ野球・東北楽天ゴールデンイーグルスで投手(ピッチャー)として活躍している、宮森智志(みやもりさとし)さんが来てくださいました。5・6年生対象に「その時々を、今を、これからを“一生懸命”生きる」ことについて、内海小・安浦中・高校・大学・独立リーグ時代のエピソードやこれからさらにプロ野球の世界で活躍するために取り組んでいること、大事にしていることなどを熱く話してくださいました。宮森選手は、後輩たちに「目の前のことを一生懸命すること、今できることをやること」「健康的な生活をする(いっぱい食べて、いっぱい寝る)」ことをくり返し話してくださいました。5・6年生は、宮森選手の話真剣なまなざしで聞いていました。宮森選手の話から学んだこと、感じたことをこれからの自分のために生かしてほしいです。

安浦小学校長 奥本雅幸



港町にベーグル屋さんOPEN!

2023(令和5)年9月2日(土)、自家製天然酵母ベーグル製造所「Village Bagel ビレッジベーグル」が安浦町三津口にオープン。住宅地の民家が並ぶ中、水色の木の柵が目目を惹く家の庭先にコンテナを改装した小さな工房で営業されています。

店は、寺岡智也さんと真由美さんの二人で運営しており、2002年～広島市で、2007年～2022年まで沖縄県那覇市で営業。その後、縁あって智也さんの母親の里である安浦町三津口に移り、2023年秋から自家製酵母ベーグルの製造販売を再開。

オープンするにあたり、安浦地区の方々が携わっており「特に大工さんにはお世話になり、本当に助かりました」と感謝の二人でした。「これから地域の皆様に喜んで頂けるよう、楽しんで作っていきたく思います」

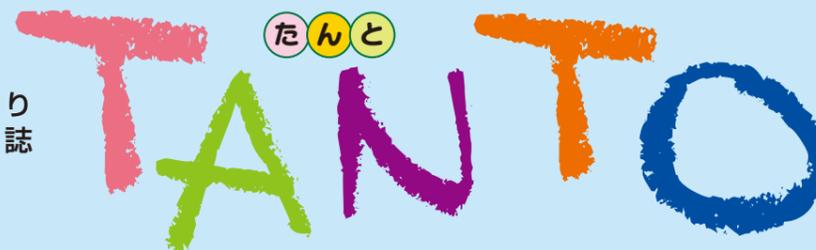
お二人の夢はまだまだ広がるようで、今後どのように実現されるか楽しみです。

Village Bagel ビレッジベーグル 自家製天然酵母ベーグル製造所

住所 呉市安浦町三津口3-2-12 電話 080-6306-9547 営業日 木・金・土・日曜日

時間 11:30～17:30(売り切れ次第終了) Instagram village_bagel_

前日までの予約注文がおすすめです。Instagram DM(ダイレクトメール)または、電話で受付。



No.58

発行
令和6年3月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261(年4回発行)

地域で子どもを育てる

プロジェクトがもたらす 地域活性化と過疎対策

放課後文化部の活動をはじめて2年、はじめは中学生が対象でしたが現在は小学生にもひろげています。町民センターを拠点に、地域の方々の協力のもとクッキングや創作活動を行い、安浦町文化祭や安浦新ええとこ祭りにも参加してきました。

活動をもっと充実させるために、2018(平成30)年、西日本豪雨災害で床下浸水した安浦町内の空き家(呉市空き家バンク)を活用して、災害を伝承しながら、子どもたちの居場所づくりや大人も利用できるスペース「Nous房(ヌーボー)」を準備中です。地域や人人がつながり、過疎対策にもなる居場所づくりのプロジェクトで、広島県主催「ひろしま“ひと夢”未来塾」の優秀賞を受賞しました。

これから空き家の改修、子どもたちとかかわるスタッフ、運営を軌道に乗せるにはまだまだです。地域の方のご協力、ぜひお願いします。



西日本豪雨災害で被災した空き家



access

呉市安浦町内海南1丁目5-12

Instagram



@TKSPROJECT2021

ボランティア団体
放課後文化部

ヌーボー Nous房

広島県主催
「ひろしま“ひと夢”未来塾」

★★★★
優秀賞を受賞



湯崎知事 代表 峠下みなみ

放課後に



創作活動

ものづくりや無料塾など

大人も



マルシェや会議

大人も使える居場所

学生も



広島国際大学と

プロジェクトによる協働

連載「やすうら記憶遺産」とは？

安浦町の風物を描き残した画家・山本讓（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。
まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で31回目のお話となります。



寺道でひとさき大きな五輪塔（呉市有形文化財）の現在。山本讓の絵には右側に宝篋印塔も描かれているが現況ではない。「昔はたくさん石塔の遺物があった」と土地の人々が言う。昔あった石塔の姿を想像して描き加えている。この大きな五輪塔は往事の姿を保つ。

現在は内海北5丁目と区別される地区は、古くは寺道と呼ばれ、その奥の台地に寺道神社と西福寺観音堂があります。西福寺谷と呼ばれる奥まった場所から、瀬戸内海を遠くに一望できます。ここに中世、内海氏という領主が居住していました。

描かれているのは、この周辺に残る五輪塔、宝篋印塔です。中世、仏教の信仰を基盤とし供養塔や墓塔として建てられたものです。この絵にも描かれている、最も大きな寺道の五輪塔は文化財指定されています。しかし、その他に数多くあった五輪塔や宝篋印塔は風化したり、石の残欠や寄せ集め塔となったり、建築資材や生活に転用されてしまい価値のないものと見過ごされ、減少や散逸、伝承の断絶などが起こっています。

16年前の2008年に、ある貴重な研究がおこなわれました。瀬戸内海沿岸の中世武士団、小早川氏の領域に残る五輪塔・宝篋印塔を調査するというものでした。安浦町での調査では、子の浦、三津口、内海の各寺院や墓所が対象となりました。

その結果、竹原小早川氏の家臣だった内海氏の領内、つまり安浦町内に残された五輪塔・宝篋印塔は他地域のものに比べて立派なものもあり、中世の内海氏とは我々が現在思う以上の勢力を保持した一族だったのではないかと、いう可能性が出て来たのです。

ひとつの文化財だけでなく、その周辺に点在するモノをひとつひとつ拾い上げ、丹念に見つめ、埋もれた歴史の断面を見つける。まだまだ安浦には歴史ロマンが隠されているのです。

山本讓、中世武士団安芸小早川領域における石塔の基礎的研究—宝篋印塔・五輪塔を中心に—、2009、593p.（2005～2008年度科学研究費補助金基盤研究（C）研究成果報告書）

やすうら再発見

散策のすすめ ◆ 内平の猪鹿垣 江戸時代の大土木工事

内平地区の入口にある穀神社には、「猪鹿垣碑」が建てられています。地域の人は、ここに一本の大きな杉の木があるのでここを「一本杉」と呼んでいます。

現在でも、猪や鹿などによる被害がありますが、江戸時代の頃も甚大な被害を受けていました。当時、仁方村掛持庄屋助次が中心となり浦部組17ヶ村より工事費の資金調達の協力を得て、石塁の長さ40町（4.4km）、高さ5尺（1.5m）、所々には落とし穴を設置、この村を取り囲むように万里の長城のような石塁を築きました。

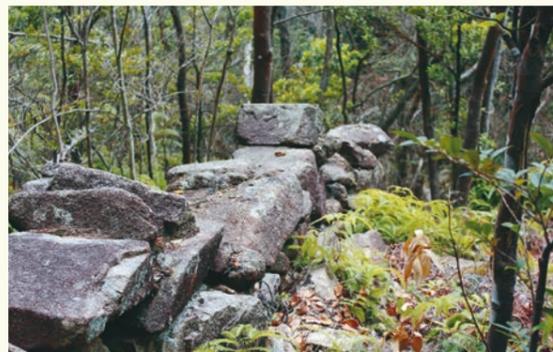
当時の内平村の戸数は45戸184人の小さな集落、工事期間は約1年、短期間で完成させました。工事費は、藩に納める年貢米のほぼ1年分になったと言われています。

この大事業に対して村人は、仁方村掛持庄屋助次の功績や感謝の気持ちを後世に伝えるために、石碑を建てました。

猪鹿垣は、現在一部で崩れて石塁がなくなっているところもあり雑木が生い茂り現地を確認することは、困難な状況です。

広島藩が編纂した「芸藩通史」の絵図の中にも描かれ、のちに広島県の県文化百選に選定されました。

この碑の前に立つと村人たちの苦悩と努力、また石塁を築いた人々への感謝の気持ちを感じます。



猪鹿垣



猪鹿垣碑



内平穀神社（一本杉）

安浦の 神明さん (トンド)

左義長ともいわれ、お正月飾りやお守りなどを焚き上げ、五穀豊穡、無病息災、家内安全を願う伝統行事です。1月中旬頃から2月中旬にかけて、お正月にお迎えした歳神様が焚き上げの煙とともにお帰りになるのを感謝をこめてお見送りをします。トンドの火で焼いた餅を食べると、一年中風邪をひかないと伝えられています。

以前と比べて実施する地区は少なくなりましたが、次世代に引き継いでいきたい行事です。

まちづくり協議会では、伝統文化の承継のため、事業実施地区にもち米を助成しています。



岡谷

女子畑

奥条

三津口

原畑

内海5区

内平

中切

跡条

いなし 市原・中畑・下道内

水尻